

当院における第二世代の AMH 測定試薬「AMH GenII ELISA」による血中 AMH 値と患者年齢および採卵成績との関連

○中山 奈央子、河野 恵美子、市橋 佳代、佐藤 学、赤松 芳恵、前沢 忠志
姫野 隆雄、大西 洋子、井上 朋子、伊藤 啓二郎、中岡 義晴、森本 義晴

《目的》

卵巣予備能の指標である抗ミュラー管ホルモン（AMH）の測定において、2011年10月より従来の試薬性能をさらに向上させた第二世代の AMH 測定試薬「AMH GenII ELISA」への移行に伴い、測定値の単位も従来の pM から世界的に主流である ng/ml に変更され、今後は新試薬の値で検討していく必要がある。そこで今回我々は、新試薬による AMH 値と患者年齢および採卵成績との関連について検討した。

《方法》

検討1:2011年10月～2012年10月に新試薬で血中 AMH 値を測定した症例のうち、PCOS および早発卵巣機能不全の診断基準を満たす症例を除外した 1283 症例を対象とし、年齢別の AMH 値を調べた。検討2: AMH の測定後1年以内に調節卵巣刺激（COS）・採卵を施行した 329 症例 370 周期を対象とし、GnRH アンタゴニスト法（167 周期）、GnRH アゴニストを用いた Long 法（170 周期）、Short 法（33 周期）の刺激法別に、AMH 値と採卵数および COS に用いた FSH/hMG 製剤の総投与量との関連を調べた。検討3: 370 周期を AMH 値によって 1.77ng/ml 未満（低値群）、1.77～5.03ng/ml、5.03ng/ml 以上の 3 群に分類し、各群の患者年齢と採卵数との相関を調べた。

《結果》

検討1: AMH 値は加齢に伴って有意に低下傾向を示した。検討2: どの刺激法においても、AMH が高値であるほど FSH/hMG 製剤の投与量が少なくても採卵数は増加し、AMH が低値であるほど投与量を増やしても多くの採卵数を得ることができなかった。検討3: AMH 低値群にのみ年齢と採卵数にやや負の相関がみられた ($r_s=-0.226$) が、他の群では年齢と採卵数との相関はなかった。

《考察》

新試薬での AMH 値は、旧試薬での値と同様に、COS に対する卵巣の反応性の予測に有用であることが示された。AMH 低値群以外では、年齢に関わらず AMH 値が採卵数の指標となりえることが示唆された。